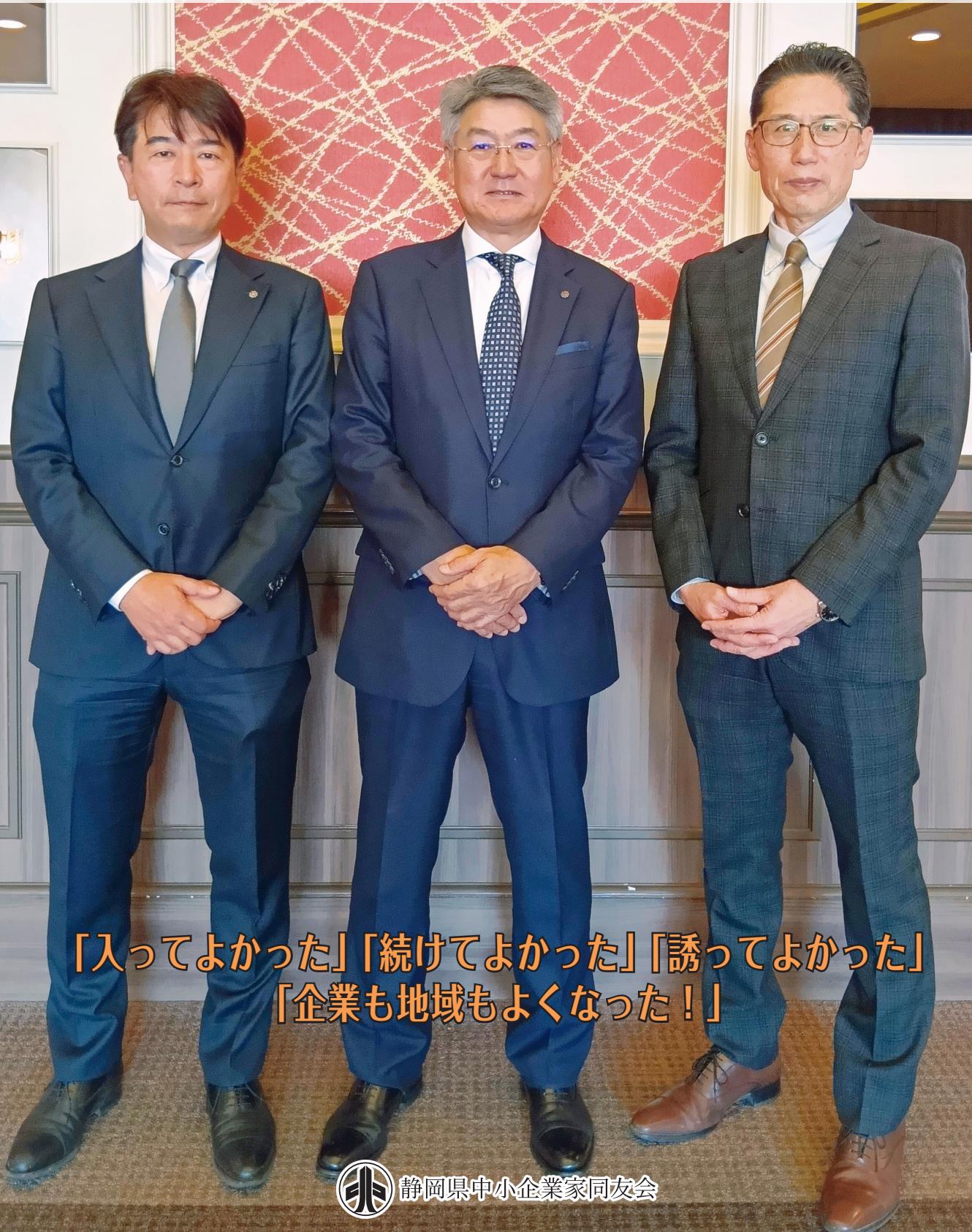


2026

同友しづおか 1

VOL.566

謹賀新年 地域の中小企業が丙午のジンクスを覆す!



「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなつた！」



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わること。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけ合い、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

その答え、 同友会にありました。

会員募集中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
FAX/054-253-1620 E-mail/dooy@szdoyu.gr.jp

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取り合い、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

※12月の新入会員の皆さんには2月号でご紹介します。

年頭所感



代表理事 松葉秀介

(松葉倉庫(株) 代表取締役社長)

地域の中小企業が丙午（ひのえうま）のジンクスを覆す！

新年あけましておめでとうございます。2026年、令和8年の幕開けにあたり、三名の代表理事を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。平素より、県同友会の運動・活動・運営に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年の振り返りと感謝 支部を越えた連帯の広がり

昨年度は県同友会50年という節目を経て、「自主・民主・連帯」の精神、そして同友会三つの目的のもと、支部を越えた学び合い・支え合い・励まし合いが一段と広がった一年でした。大学や金融機関、行政機関などとの新たな連携がいくつも生まれたことは、会員の皆様一人ひとりの挑戦の積み重ねの成果です。あらためて深く感謝申し上げます。

VUCAの時代にこそ求められる「同友会型経営」

Complexity複雑性、Ambiguity曖昧性）の時代にあっても、社会課題と自社課題の双方に向き合い、地域とつながりながら事業を進める私たち同友会の取り組みは、対外的な信頼にもつながっています。「科学性・社会性・人間性」を基盤とした企業づくりは、今や地域づくり・社会づくりそのものに不可欠な視点となつており、同友会の理念が時代に強く求められていることを実感する一年でもありました。

丙午の年に向き合つ社会課題 少子化を「自分ごと」に

今年の干支は60年に一度の丙午（ひのえうま）です。前回の丙午

（1966年）では迷信の影響で出生数が大きく減少（前年の1,82万人から約46万人減少）し、昨年還暦を迎えた私自身も、当時の学年の人數差を身近に経験しました。

現在の日本では、出生数が9年連続で減少し、70万人を下回る深刻な少子化が続いている。これは社会全体の課題であるとともに、特に日本の企業の99%以上、雇用の7割以上を担う私たち地域の中小企業にとっても極めて大きな課題です。『人間尊重』を掲げる同友会型経営の実践こそが、働く人が地域で安心して暮らし、豊かさを実感し、そして安心して子育てできる環境づくりにもつながっていくと確信しています。

丙午のジンクスを覆し、挑戦の年に

前回の丙午のジンクスを覆す気概を持ち、令和の丙午を「挑戦」と「転換」の年とする、私たち一人ひとりの小さなチャレンジの積み重ねが、社会課題解決の大きな一步となるはずです。昨年11月の第39回全県経営フォーラムのスローガンは、『やらまいか！中小企業家の戦いがここから始まる!!』でした。今年のスタートにあたり、皆様はどのような「これから」を胸に刻まれたでしょうか。職場づくり・人づくり・地域づくりのいざれにおいても、まずは一つの挑戦から歩みを始めてまいりましょう。

全国総会へ向けて 静岡から日本へ

本年7月には、第58回中小企業家同友会全国協議会定時総会in静岡が開催されます。開催地として、私たち自らが「日本」の深みを極め、日本一の高みを目指す姿を示す絶好の機会です。共に学び、共に新たな挑戦を生み出し、静岡から全国へ、そして地域社会へと、その歩みを力強く広げてまいりましょう。

そして、静岡同友会は新たなステージへ！

時代の変化とともに高まりを実感する私たち中小企業家同友会への信頼と期待。組織としての新たなステージへ上の時が来ています。更なる高みからしか見えない景色があります。まずは1,200名会員の実現、そして法人化への取り組みを通じた同友会運動の進化と深化です。一人一人の力を合わせ、私たちの静岡同友会を新たなステージに引き上げましょう!!

美容を通して、美容師や関わる方々の社会的地位を上げていきたい

代表取締役 小林久城氏（浜松支部）
(株)SWAG



小林氏

デザインから
ヘアデザインから
アイビューティーまで
一貫した美容サービスを提供しています。代表取締役の小林氏は三重県出身で、23歳の時に浜松へ移住、24歳で店長に就任し、27歳で



ビューティーサロン「Ém Fellir」外観

同社では、地域の皆さんに選ばれ続ける美容室を目指し、これら商業面の強化に取り組んでいきたいと考えているそうです。特に大人の女性向けのサービスに力を入れ、落ち着いた空間づくりやサービスなど、年代に寄り添った提案を大切にしています。飲食店のように目に見える“色”が出しづらいからこそ、確かな技術、丁寧な接客、スタッフ一人ひとりの

今後力を入れていきたいこと

法人を設立しました。その後はフランチャイズ事業の運営にも携わり、地域に根ざした美容サービスの提供に尽力しています。2011年には浜松市原島町に1号店をオープンし、2013年にはさらにお譲り受けた店舗を磐田市へ出店しました。お客様一人ひとりに寄り添う技術とサービスを大切にしています。



小林氏とスタッフの皆さま

美容業界の抱える課題解決に向けた
美容業界の抱える課題解決に向けた
ヘアデザインから
アイビューティーまで
一貫した美容サービスを提供しています。代表取締役の小林氏は三重県出身で、23歳の時に浜松へ移住、24歳で店長に就任し、27歳で

同友会へは、経営の基本を学び、経営者としての視野を広げたいと考え入会を決意しました。さまざまな経営者の方々と交流する機会が増え、横のつながりが生まれ、大きな刺激を受けるようになったそうです。

同友会に入会したきっかけ

一方で、法人化しているサロンがまだ少ないという現状があります。その結果、雇用環境や福利厚生が十分に整っていない、給与や働き方に不安を感じるスタッフが多い、といった問題が生まれています。だからこそ小林氏は、「美容師の働く環境を改善し、美容師全体の社会的地位を高めていきたい」という思いで取り組んでいます。美容という仕事は、お客様の人生を豊かにし、毎日を明るくする大切な仕事です。その価値が正しく評価され、安心して長く働ける業界にしていくことが、今求められています。

取材・記事：渡瀬亜由子（夢トロッコ・浜松支部）

取材：

秋山英正氏

花井純氏（浜松資材株・浜松支部）
(スペースブランディング株・浜松支部)

(株)SWAG

〒435-0047 浜松市中央区原島町621

TEL：053-411-5215

URL：<https://emfellir.jp/>

設立 2009年

社員数 27名（パート・アルバイト含む）

入会年月 2025年2月

事業内容 美容室・まつ毛サロンの経営

真の満足から生まれる、irohacoの
家づくり

(有)アーヴィングス(いわはこ)
代表取締役 山田 浩慶氏(三島支部)



山田氏（左）と取材陣

そこで、飲食業で得た経験を住まいづくりに活かすため、住宅ブランド「irionaco」を設立。完全自由設計によりお客様一人ひとりの想いを形にし、施工実績を活かした適正価格で、建てた後の暮らしまで見据えた住まいを提供しています。irionacoは、家づくりを通じてお客様の人生をより豊かにすることを目指しています。

i-rohacoの強みは、「お客様の満足」を家づくりの基準に据えて、いるところです。あらかじめ決められたプランを当てはめるのではなく、完全自由設計にこだわ

現していることも大きな特徴です。年間50棟以上の施工実績による建材の一括仕入れや、職人との長期的な協力体制により、無駄な中間コストを徹底的に削減し685万円から高品質な住まいを提供することができます。家を建てることがゴールではなく、建てた後の暮らしや人生まで見据えること、それが本気で考え、行動しているこそが一社の最大の強みです。

り、ご家族一人ひとりの暮らし方や価値観、将来設計まで丁寧に伺います。その想いを余すことなく形にすることが、眞の満足につながると考えていてます。また、自由設計でありますながら適正価格を実



irohaco外觀

工品質を高め続けるとともに、人材育成にも力を注ぎ、想いを共有できる仲間を増やし、「満足度を基準にした家づくり」を軸に歩み続けていきます。

取材・記事：細井崇史氏
(花屋 Marley・三島支部)

想いを共有する仲間といふべく、irohacoの未来

「完全自由設計と適正価格とい
う強みをさらに磨き、お客様一人
ひとりの暮らしや人

満腹ではなく、満足をつくる
家づくり

山田氏は26歳で起業し、焼肉店やイタリアンレストランなど複数

の飲食店を経営してきました。その中で培われたのが、「満腹ではなく、満足を提供することが事業の本質である」という考え方です。料理の質、接客、空間、価格など



完全自由設計の内装

家を建てることが
ゴールではなく、住
み始めてからの暮ら
しがより豊かになる
ことこそが私たちの
使命」と山田氏は語
ります。そのため
設計力、提案力、施

(有)アヴァンス (いろはこ)

元411-0903 駿東郡濱水町堂庭241-22

TEL : 055-981-1685

URL : <https://in>

創業 2004年

社員数 18名

入会年月 2010年2月
事業内容 住宅の設計、施工、リリフォー

第39回全県経営フォーラム

記念講演 いま、中小企業経営者が徳川家康から学ぶべきこと

講師・小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）

11月27日（木） ホテルクラウンパレス浜松 参加者・275名



小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）

小和田哲男氏から75年の生涯のうち15年間を浜松の地で過ごした徳川家康がいかにして事業拡大（江戸幕府創立）に成功したのか、現在の企業経営にも直結する事柄をいくつかの切り口からご講演いただきました。講演内容を一部ご紹介します。

現代の経営にも通じる家康の人材観

家康の人材観は「人の長所をとれ」でした。人材配置は単なる適材適所でもリーダー好みで選ぶのではなく、誰がどのよう

な仕事に向いているのか、常に人の長所を見て仕事を与えることが重要と考えていました。また、補佐役には「自分によいことを言つてくれる人ではなく、耳の痛いことを言つてくれる人」を置くことを大切にしていました。家康は様々な経験から家臣たちに支えられ成長してきたことを実感し、家臣を大切に思う気持ちがありました。その気持ちこそが家臣から信用される大名になる土台となりました。

1573年に起きた三方ヶ原の戦いで家康は大敗し家臣の約1割を失いました。家康の身代わりとなり、命を落とした家臣も数多くいたといいます。家臣によつて生かされたこの経験が後に「家臣こそわが宝」の精神を形作る原点になりました。また、この戦で大きな挫折を経験した家康でした

が、「次は負けてたまるか」と強い気持ちを持つことが失敗を乗り越える糧となること、その先に成長や成功があることを自身の経験をもつて我々に伝えてくれているのではないかでしょうか。

歴史は未来を照らす鏡

「前車の覆るは後車の戒め」のことわざが示すように、同じ失敗をしないで済むことが歴史の学び方のひとつです。家康自身は、自分の前を走っていた織田信長と豊臣秀吉の2人の良いところ、悪いところを見て学び、良いところは受け継ぎ、失敗は繰り返さないことを徹底していました。また、多くの歴史書を読み、先人たちの成功や失敗について熱心に学んでいたといわれています。歴史を学ぶことでヒントを得てきたことこそが、家康が大きな成果をあげられた要因であると考えられます。

「歴史は鏡であること」を我々も認識しなければなりません。歴史という鏡で未来を照らす。歴史は単なる過去に起きた出来

事ではなく、未来のためにあります。歴史番組や大河ドラマで出てくる人物、自分自身の前を走つていた先人たちの良いところを学び、悪いところは軌道修正していくことは、家康から学ぶことができるリーダーとしての姿勢であり、これこそ中小企業経営者が歴史から学ぶべきことではないでしょうか。



第39回全県経営フォーラム 分科会参加者感想

12月号に引き続き分科会の感想をご紹介します。

第1分科会

「人が辞める本当の理由、見えてますか？」

第1分科会は、「人が辞める本当の理由、見えてますか？」をテーマに人を生かす経営について学びました。昨年、自社において2名のスタッフが退職してしまったことから、当分科会を選択しました。分科会内で同友会が推進している「企業変革支援プログラムver.2」に則って各自が自社の診断を行いました。自社における「経営者の責任」「経営理念の実践」等がレーダーチャートで認識でき、人を生かすための社内制度等の現在位置が明確になりました。グループでの討論では、ブレザーシス



第1分科会グループ討論の様子



第4分科会の様子

第4分科会

「話して共有、わが社のやらかし みんながしくじり先生！～失敗のあとの思考法～」「全員がプチ報告者」という言葉に惹か

タード制度の導入、人事課や社外コンサルなどに定期的に社員の思っていることをヒアリングするなど、離職防止の取り組み事例を共有しました。会員企業の「企業変革支援プログラム」の実施率が0.02%ということに驚きましたが、自社の現在位置をこのプログラムで確認しながら、社内整備を進めていこうと決意ができました。

足達聖也氏

(株スマートステイ／伊東支部)



小和田先生を囲んで実行委員の皆さんと

伊藤光昭氏（伊藤金物㈱／富士支部）

「話して共有、わが社のやらかし みんながしくじり先生！～失敗のあとの思考法～」「全員がプチ報告者」という言葉に惹かれた、この分科会を選択しました。最初のバズテーマは「あなたがやられたこと」。経営者の失敗談はスケールが違う！ 参加者それぞれが自らの失敗を抉り出し、さくら出場になりました。多額の借金、度重なる事業不振からの再起、市場変化への対応不足など、ここでしか語れない経験が次々と語られました。「なんとなく生きてきたことと自分が失敗だった」という告白もあり、座は重苦しい雰囲気に…。でも、そんな話ができる同友会にしてよかったと思えるバズでした。続くバズテーマ「失敗の後の思考法」では、失敗から目をそらさないこと、あきらめないことといった心構え、早めの対処や積極的な行動の大切さなど、今日から生かせる言葉が詰まっていました。深さと真剣さに満ちた、全国レベルを超えた分科会でした。

れ、この分科会を選びました。最初のバズテーマは「あなたがやられたこと」。経営者の失敗談はスケールが違う！ 参加者それぞれが自らの失敗を抉り出し、さくら出場になりました。多額の借金、度重なる事業不振からの再起、市場変化への対応不足など、ここでしか語れない経験が次々と語られました。「なんとなく生きてきたことと自分が失敗だった」という告白もあり、座は重苦しい雰囲気に…。でも、そんな話ができる同友会にしてよかったと思えるバズでした。続くバズテーマ「失敗の後の思考法」では、失敗から目をそらさないこと、あきらめないことといった心構え、早めの対処や積極的な行動の大切さなど、今日から生かせる言葉が詰まっています。深さと真剣さに満ちた、全国レベルを超えた分科会でした。

フォーラム実行委員

実行委員長 県副代表理事	伊藤 洋子（㈱シーエーティー）	富士宮
副実行委員長 県副代表理事	越膳 徹（㈲イーリード）	沼津
副実行委員長 浜松支部	大関 泉（㈱ジー・ディー・エス）	浜松
担当代表理事	松葉 秀介（松葉倉庫㈱）	志太

第1分科会		
リーダー	萩 智理（㈱ラブト）	静岡
サブリーダー	辻本 光裕（㈱辻本企画）	沼津
	大竹 直（アマホールディングス㈱）	伊東
	小林 裕敏（㈱共立アイコム）	志太
	鈴木晋太郎（㈲久太田会計事務所）	榛南
	池田 直之（㈱池田製作所）	榛南
	三島 一浩（サンレイ食品㈱）	浜松

第2分科会		
リーダー	西舡 亮貴（㈱駿東ドリームビレッジ）	富士宮
サブリーダー	田中 大輔（㈲チアキ機工）	富士宮
	村松 繁（アイマーク㈱）	志太
	渡辺 早紀（合同会社レッジ・ストック）	三島
	小林 完（東和自動車販売商会）	沼津
	原田 昌樹（㈱アレミティ）	静岡
	伊藤 嘉浩（ブルデンシャル生命保険㈱浜松支社）	浜松

第3分科会		
リーダー	下坪 壮介（薰風堂）	静岡
サブリーダー	望月 康平（㈱カネキユウ）	静岡
	鈴木 将大（㈲東亜電気工業）	伊東
	鈴木 滋敏（㈱鈴剛）	富士
	三木 綾美（AmiraiZ）	富士宮
	藤井 陽介（㈲藤井建築）	中遠
	江間 省豪（データマイン㈱）	浜松

第4分科会		
リーダー	宮口 貴信（グリーンシステム㈱）	中遠
サブリーダー	西川 龍司（㈱富士ドリームビレッジ）	富士
	田中 友寛（カグスタイリングプラス）	三島
	佐野 雅文（合同会社ComingTrue）	沼津
	梅屋 直史（㈱ボリマテック）	富士
	鈴木 達仁（理仁薬品㈱）	静岡
	鈴木 裕貴（㈱デイジー）	浜松

第5分科会		
リーダー	渡邊 且真（㈱協和）	静岡
サブリーダー	渡邊 雅也（㈲富士美装）	富士宮
	森 一直（山本電機㈱）	榛南
	石山 美歌（ラウンジ ジャジーラ）	御殿場
	北田 記章（㈲北田木材）	御殿場
	俵 沙織（㈱東明電気製作所）	沼津

静岡産業大学と連携及び協力に関する協定を締結

12月5日(金) 静岡産業大学藤枝キャンパス 参加者・大学6名 同友会12名



静岡同友会は、静岡産業大学との連携及び協力に関する協定を締結しました。締結式には、堀川知廣学長はじめ、佐野経営学部長、小泉教務部長、広岡事務局長、田中學長補佐兼企画戦略室長、吉添企画戦略課長が出席。同友会からは松葉代表理事、井上代表理事をはじめ12名が出席しました。

本協定の目的は、「地域社会との連携を図り、地域の実情やニーズを把握のうえ、地域社会の様々な課題解決に向けた取組みを推進すること」としていきます。

堀川学長からは、本協定締結を契機に、同友会会員による生きた経営実践を語る「冠講座」や豊富な学識を擁する教員との共同研究をはじめ、地域社会と日本を支える99%以上の中企業の発展にむけた幅広い連携に期待したいとの挨拶がありました。同友会からは松葉代表理事より、本連携協定で

静岡同友会は、静岡産業大学との連携及び協力に関する協定を締結しました。締結式には、堀川知廣学長はじめ、佐野経営学部長、小泉教務部長、広岡事務局長、田中學長補佐兼企画戦略室長、吉添企画戦略課長が出席。同友会からは松葉代表理事、井上代表理事をはじめ12名が出席しました。

本協定の目的は、「地域社会との連携を図り、地域の実情やニーズを把握のうえ、地域社会の様々な課題解決に向けた取組みを推進すること」としていきます。

堀川学長からは、本協定締結を契機に、同友会会員による生きた経営実践を語る「冠講座」や豊富な学識を擁する教員との共同研究をはじめ、地域社会と日本を支える99%以上の中企業の発展にむけた幅広い連携に期待したいとの挨拶がありました。同友会からは松葉代表理事より、本連携協定で



静岡産業大学は1994年に開学。卒業生は1万人を超えて、県内や国内外で社会の中心となって活躍しています。「地域や世界の動きを学ぶ実学教育」「成長が実感できる大化け教育」「希望する職に就けるキャリア教育」を教育方針として掲げています。また基礎学問から応用分野まで60名の専門教員が在籍しています。藤枝キャンパスでは経営学部、磐田キャンパスでは経営学部とスポーツ科学部を開設し、約400名の学生が在籍しています。

藤枝キャンパスでは、今春4月から会員が教壇に立ち経営学部生にむけた冠講座が開講され、約400名の学生が在籍しています。静岡同友会と大学との協力協定は、2008年9月静岡大学、2025年7月静岡英和学院大学及び短期大学部に続き、3大学となりました。

静岡同友会は1994年に開学。卒業生は1万人を超えて、県内や国内外で社会の中心となって活躍しています。「地域や世界の動きを学ぶ実学教育」「成長が実感できる大化け教育」「希望する職に就けるキャリア教育」を教育方針として掲げています。また基礎学問から応用分野まで60名の専門教員が在籍しています。藤枝キャンパスでは経営学部、磐田キャンパスでは経営学部とスポーツ科学部を開設し、約400名の学生が在籍しています。

藤枝キャンパスでは、今春4月から会員が教壇に立ち経営学部生にむけた冠講座が開講され、約400名の学生が在籍しています。静岡同友会と大学との協力協定は、2008年9月静岡大学、2025年7月静岡英和学院大学及び短期大学部に続き、3大学となりました。

中小企業等支援に関する包括連携協定を遠州信用金庫と締結 地域と中小企業の発展にむけ具体的な連携に繋げる

12月15日(月) 遠州信用金庫本店営業部



静岡同友会は12月15日(月)、遠州信用金庫と「中小企業等支援に関する包括連携協定」を取り交わしました。鈴木理事長、松下和広常務理事の3名、同友会から代表理事や浜松支部役員を中心

に8名が出席し、締結式が執り行われました。本協定は中小企業の抱える経営上の各種課題を解決し、地域の中小企業の発展と地域経済を活性化させることを目的としています。

守田会長と鈴木理事長からは本日の協定締結がゴールではなく、中小企業が地域で生き残っていくために、中小企業の現況や

守田会長と鈴木理事長からは本日の協定締結がゴールではなく、中小企業が地域で生き残っていくために、中小企業の現況や

直面している課題、金融機関への要望などをもとに意見交換し、実のある協定にしていきましょうとお話をいたしました。

本協定締結を契機に相互の協力関係を今まで以上に強化し、地域課題の解決や地域活性化を進めています。

静岡同友会は12月15日(月)、遠州信用金庫と「中小企業等支援に関する包括連携協定」を取り交わしました。鈴木理事長、松下和広常務理事の3名、同友会から代表理事や浜松支部役員を中心

に8名が出席し、締結式が執り行われました。本協定は中小企業の抱える経営上の各種課題を解決し、地域の中小企業の発展と地域経済を活性化させることを目的としています。

守田会長と鈴木理事長からは本日の協定締結がゴールではなく、中小企業が地域で生き残っていくために、中小企業の現況や

守田会長と鈴木理事長からは本日の協定締結がゴールではなく、中小企業が地域で生き残っていくために、中小企業の現況や



右から守田会長、鈴木理事長、井上・篆・松葉代表理事

静岡大学連携講座「中小企業と経営哲学」

第4講

10月29日(水)

目的は社会課題の解決!NPO経営で チャレンジする少子化時代の社会デザイン

講師・塩川祐子氏
(特定非営利活動法人母に向かう委員会・富士宮支部)



塩川氏は自身が子育てで悩んだ経験から、生き生きとその人らしく子育てができる社会をつくりたいとNPOを立ち上げました。産後母親の孤独感・承認機会の減少などの課題解決に向け、産後ケアやママ同士の交流の場づくりに取り組んでいます。また、男性の家事・育児参加も課題です。最後に学生に「あなたにどのような社会課題は何ですか」と問いかけました。

第5講

11月5日(水)

モノづくりで社会を支える

講師・兼古東志浩氏
(株)アイビス・中遠支部



受注から納品まで一貫体制で行う(株)アイビス。兼古氏は幼い頃からプラモデルや工作機械が好きでこの業界を選んだといいます。日本の製造業を象徴する大和言葉「ものづくり」の意味や世界における日本の製造業の立ち位置に触れ、「日本の製造業を世界のトップへ引き上げたい」と思いを語りました。「仕事を選ぶ際は一生付き合っていけますか」という見極めを大切にしてください」と学生に伝えました。

第6講

11月12日(水)

「仕事ってなんだろう?」4つの満足を 基盤とする我が社の弱虫経営

講師・西村知浩氏
(株)ウェッジ・富士支部



塩川氏は自身が子育てで悩んだ経験から、生き生きとその人らしく子育てができる社会をつくりたいとNPOを立ち上げました。産後母親の孤独感・承認機会の減少などの課題解決に向け、産後ケアやママ同士の交流の場づくりに取り組んでいます。また、男性の家事・育児参加も課題です。最後に学生に「あなたにどのような社会課題は何ですか」と問いかけました。

第7講

11月19日(水)

人と話すから人と繋がる

講師・秋山英正氏
(浜松資材株・浜松支部)



受注から納品まで一貫体制で行う(株)アイビス。兼古氏は幼い頃からプラモデルや工作機械が好きでこの業界を選んだといいます。日本の製造業を象徴する大和言葉「ものづくり」の意味や世界における日本の製造業の立ち位置に触れ、「日本の製造業を世界のトップへ引き上げたい」と思いを語りました。「仕事を選ぶ際は一生付き合っていけますか」という見極めを大切にしてください」と学生に伝えました。

第8講

11月26日(水)

49歳社長×静大生「未来の描き方」 「2035年、最高の私」へのロードマップ

講師・増田隼人氏
(株)集客デザイン研究所・三島支部



増田氏は自身の経験から、アシリテーションの重要性について、場を盛り上げ、人を動かし、先輩や上司との距離を縮める力になると語りました。また実際に学生主体でグループワークを行い、「10年後の幸せな平日」をテーマに、理想と現実のギャップを埋めるためのこれから10年戦略について話し合いました。

第9講

12月3日(水)

じぶんづくり、かいしゃづくり、まちづくり

講師・小野寺敦嗣氏
(富士設計株・富士宮支部)



若くして経営者となつた責任感を胸に、同友会での学びを経営に生かしてきた小野寺氏。「人を生かす経営」を教科書に、営業成績中心だった視野を改め、社員を尊重する姿勢へ転換。新社屋建設では資金調達以外は社員に任せ、建設地についても社員の希望を優先してきました。「社員のやりがいと働きがいを大切にする経営を進めている」と社員への想いを語りました。

県にじいろ共生委員会 クリスマスマーケット
あたたかい支援でつなぐ
福祉の輪

12月13日(土)
青葉公園シンボルロード



寄付の詳細につきましては追って皆様にご案内します。

ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

1月・2月

DOYOU CALENDAR

1月16日(金)～2月15日(日)

2026年1月 16日(金)	グループ長研修 (19:00 ロゼシアター) 県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
22日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
23日(金)	中同協定時総会in静岡 実行委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 沼津新年例会 (イントロセミナー) (18:30 彩食茶の間Coo沼津店) 富士新春例会 (19:00 ホテルグランド富士)
26日(月)	役員研修会 (15:00 クーポール会館) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
27日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM) 三島賀詞交歓会 (19:00 三島商工会議所)
28日(水)	志太例会 (19:00 B-WORLD)
29日(木)	中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)
30日(金)	県例会企画委員会×県青年部コラボ グループ長体験会 (19:00 ペガサート)

2月 3日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
5日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
7日(土)	経営指針を創る会 大同窓会 (17:00 浮月楼)
10日(火)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア) 静岡例会 (19:00 教育会館)
12日(木)	伊東例会 (19:00 未定) 浜松例会 (19:00 浜松市市民協働センター)
13日(金)	第4回青年部東海合同例会in岐阜 (13:00 ホテルグランヴェール岐山) 富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉社会館)

《あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください》



第22期経営指針を創る会 経営指針発表会

仲間と共に自社・自身と向き合い作成した
経営指針を発表

11月15日(土)～16日(日) ペガサート・クーポール会館 参加者：34名

今年6月から全10講で開催した第22期経営指針を創る会の最終講にあたる経営指針発表会を受講生10名、修了生24名参加のもと開催しました。当日は受講生が、これまでの期間で自社や自身と向き合い、本音で議論を重ね作成した経営指針を発表しました。受講生からの感想・今後の決意を紹介します。

<受講生感想>

同友会に入会するまでは自社に「経営指針書が存在しない」ことに重要性を感じていませんでした。そのため、目の前の問題を解決することの繰り返しが経営者としての責務であると感じていました。しかし、事業承継時に経営指針書が成文化されていなかったことへの不安や疑問、そして、次世代へのバトンとして指針書を創らなければならないと感じ受講を決めました。創る会は自身の心の奥底にある本音（覚悟）に「なぜ」「どうして」「誰のために（誰に向けて）」と深掘りすることで、創業者や歴代社長の思いを知り、自社事業定義、経営理念、経営計画を策定し自社の進むべき方向を明確にすることができます。また、修了生の皆様の経験や他業種からの視点等により、自身では気付かない本音を引き出すことができます。また、受講生の皆様と共に切磋琢磨することで新たな絆も生まれました。経営指針書の成文化はゴールではありません。自社の目指すべきゴールを示すことができ、ようやくスタートラインに立つことが出来たに過ぎません。経営指針書を自社に浸透させ、常に自社や自らを照らし合わせ、社会情勢や自社の状況等を鑑みアップデートし続けていきます。

杉本 高英氏 (株)杉本商店・伊東支部



第22期創る会受講生とスタッフ陣